

絶滅危惧のカエル 多数生息

東村山の北山公園

ショウブ田などに数十匹

ハナショウブで有名な東村山市の北山公園で、都内では絶滅の危機にひんしているトウキョウダルマガエルが多数生息していることが分かった。北多摩地域では絶滅したとみられていた貴重な植物なども見つかり、市は今年4月から動植物の本格調査を開始した。水田の減少など生息環境が変化する中、公園内にある約10万本のショウブ田などが、保全に一役買ったとみられている。

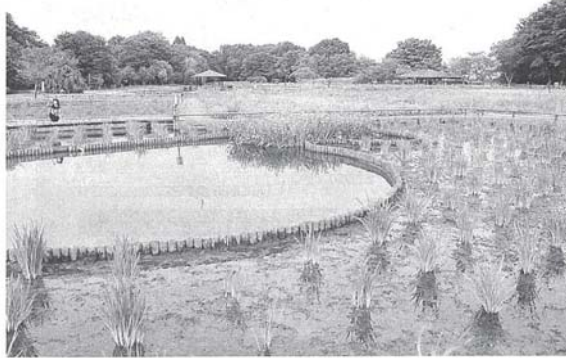
貴重な植物も確認

市の委託を受けて調査を「キョウダルマガエルは、行っている環境NPO法人 主に関東や東北地方の平野「NPO birth」(西 部に分布する。トノサマガエル(東京市)によると、トウ エルに似ており、体長は4



東村山市の北山公園で昨年見つかったトウキョウダルマガエル (NPO法人「NPO birth」久保田潤一さん提供)

9センチと大型。水田や浅瀬などに生息し、左右のほおを膨らませて鳴き声を上げる。水田などの減少に伴い、生息数が激減したとされる。都のレッドリストでは、



池やショウブ田などが広がる北山公園 (20日)

都内各地域で、近い将来の絶滅の危険性が高い絶滅危惧種などに指定。あきる野市が今年4月にチラシを全戸配布して目撃情報を市民に募ったが、報告は3件(21日現在)しか寄せられていないという。

北山公園にトウキョウダルマガエルが生息していることは知られていたが、公園の整備計画に関する東村山市や市民有志の意見交換会で、生息調査の必要性が指摘された。

調査を行った結果、園内のショウブ田などで数十匹以上のトウキョウダルマガエルが確認された。また、北多摩地域では絶滅したとされていた貴重な植物のアズマツメクサやミズハコベなども確認された。これを受け、東村山市は今年度予算に約7万円を計上して、初めての生息

調査に乗り出すことにした。調査は今年から秋頃まで行い、両生類や爬虫類、魚類、トンボ類、植物の生息状況を来年春までにまとめるという。都立狭山公園などの管理も担当している同NPO職員久保田潤一さん(97)は「トウキョウダルマガエル

のまとまった生息地は、都内にほとんどないのではないか。ショウブ田の水辺が貴重な湿地を残し、都内全体でも大事な場所になっている」と指摘。東村山市みどり公園課は「調査結果を待って、北山公園に動植物が生息しやすい環境整備をしていきたい」としている。